

推し活で発生する見えないお金を利用した際の 金銭状況の把握に関する意識調査

山寺 琴音[†]加藤 大弥[‡]情報経営イノベーション専門職大学[†]慶應義塾大学[‡]山内 正人[§]情報経営イノベーション専門職大学[§]

1 はじめに

現在、若年層における調査においても月々のお金の利用項目に推し活費が登場するなど推し活が身近になり、誰でも自分が好きなものを好きなように応援することが可能になった。また、キャッシュレス決済の発展における見えないお金を利用した金銭的な支払いが増加し、推し活は個々が好きなように楽しむことが本来の目的であるはずなのにも関わらず、身の丈以上に推しに貢いでしまう現状がある。

そのなかでキャッシュレス決済などは、自身の金銭状況を把握することが難しいため、システムとしてこれらをサポートする仕組みが必要だと考える。そこで、本研究では若年層における推し活とキャッシュレス決済における金銭状況の調査を行い実際に問題があるのかを明らかにする。

2 推し活における金銭状況の必要性

2.1 推し活について、推し活の状況

推し活とは、自分の好きな芸能人やスポーツ選手、キャラクターなどを応援する活動の総称のことである [1]。現在 10 代では約 7 割 20 代でも約 5 割の女性が推しがいると回答し [2]、多

くの女性が推し活を行っているのがわかる。また、推しを応援するためにライブやグッズ、配信での投げ銭など多くの場面で出費が発生している。

2.2 推し活における問題点

近年、身近になっている推し活だが、それによる金銭面での問題は後を経たない。特に未成年による消費者生活センターへの問い合わせが増加しており、自身の小遣いの範囲を超え、親のクレジットカードを使用して推し活をしているケースも見られる [3]。本研究ではこの問題をクレジットカードやキャッシュレス決済等の目に見えないお金の利用と自身の経済状況の認識のずれの問題と捉え、実際の推し活をしている人への実態の調査を行う。

3 推し活と金銭状況の調査

3.1 推し活と金銭状況の調査

本研究では、推し活における金銭的な状況を知るため、Google Form を活用しオンライン上でアンケートを実施した。対象者は推し活をしたことのある大学生、社会人、フリーターなど 20 代を中心に行った。内容としては、月々の収入と推し活に費やす費用、推し活をすることによって実際に金欠に感じているか、支払い方法など、自身の金銭面と推し活についての項目を 14 名に調査した。

3.2 推し活と金銭状況の分析

調査の結果、推し活によって金欠になったと感じたことがある割合は、92.9 % であり。図 1

Survey of awareness of the own financial situation when using invisible money generated by Oshi-Katsu.

[†] Kotone Yamadera, iU

[‡] Daiya Kato, KMD

[§] Masato Yamanouchi, iU

より月収は 5-10 万円未満が一番多く 57 %であった。

3.あなたの平均月収を教えてください
14件の回答

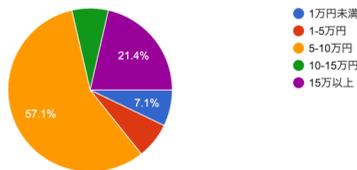


図1 平均月収について

推し活に月いくら使っているかという質問には、図2の結果より 1-5 万円未満が回答が多く。今回の質問では、年間月平均を調査したため LIVE やグッズの発売が重なるなどの要因があると金額にも変動が起こると考えられる。しかし、収入の割合から考えても月々に半額弱を推しに使っていることになる。

推し活に対して月いくら使っていますか。
14件の回答

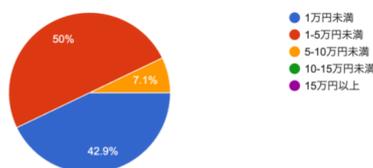


図2 月々の推し活費用について

支払い方法に関しても想定した課題の通り、現金ではなくクレジットカードなどのキャッシュレス決済での支払いが半数以上を占めていた。しかし、キャッシュレス決済を使用するようになってから支払額が増えたか、という質問に対しての回答の結果は半数ずつになっていた。また、今回の調査ではどんな時に自身が金欠に感じるのかという質問も合わせて行った。その中の回答で多かったシーンとして、「グッズ」や「LIVE」などにお金を使った時であった。グッズが大量に出た時や遠征する時など、推し活の

中で一番楽しい時間に対し金欠になったと感じている瞬間があることがわかる。また、金欠になった際に出費を減らす割合が多かったのは娯楽費や食費が多く、ここを減らしても生活に支障が出ないという意見が多かった。この項目では推し活費を減らすも用意していたが、娯楽費・食費で 60 %を超えている点から推し活費を減らすことに抵抗があると感じている人の方が多いと考えられる。それでも足りない場合は親に頼る、分割払い・リボ払いの順にとなった。このことから、現状では自分が金欠と感じた場合でも親などに頼りカードなどの支払いをするなど悪循環が続いていることが今回の調査で明らかになった。

4 まとめ

今回の調査で若年層の推し活ではキャッシュレス決済を利用することによって自身の収入の限度を超え、親などの家族に頼り成り立っている場合が多く、個々が好きなように楽しむことが本来の推し活であるのにも関わらず個人で収まっていない現状が起きている。今後は自身の中で金銭状況を把握し、それぞれのライフバランスに合った推し活をサポートできるシステムの検討が必要である。

参考文献

- [1] コトバンク：推し活, <https://kotobank.jp/word/%E6%8E%A8%E3%81%97%E6%B4%BB-3132799> : 2023年12月20日閲覧.
- [2] 株式会社タイトー：いい推しの日(11月4日)、「推し活グッズ」に関するアンケート, <https://prt-times.jp/main/html/rd/p/000000284.000041970.html> : 2023年12月15日閲覧.
- [3] NHK, : 投げ銭急拡大, <https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4599/> : 2023年12月17日閲覧.